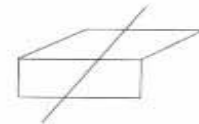


皆さん、私たちの「リハビリ」と言う言葉にどんなイメージを持っていますか？

Jastrow (1900)の絵

ウサギに見える？

アヒルに見える？



段の絵

ヴィトゲンシュタインの見た世界
黒崎宏 著

これは20世紀初頭のウィーンの哲学者ヴィトゲンシュタインが説明した私達の世界です。

同じ絵という事実を見ている各人の心の絵は一人一人違ったものを見えています。言葉も同じです。

多職種チームプレイを行うためには全員が同じイメージ、方向を見なければ成功しません。上記の絵が心のイメージの共有の必要性を物語っています。

一羊館の「リハビリ」とは？——— 一羊館に入所していること自体がリハビリ。車椅子移乗、起き上がり、端座位、立位動作、立位保持、会話、コミュニケーション、食事行為、入浴、毎日のすべてがリハビリです。

一羊館は高齢者の入院医療と在宅療養の橋渡しの役割がありますのでそれにあたりリハビリの共通イメージが必要です。私達の仕事は見方によってはすべてが介護でもあり、リハビリでもあります。即ち、全職員がリハビリ（広義のリハビリ）に参加している、介護（広義の介護）に参加している、ということです。

PT、OTがやっていることはリハビリのほんの一部(狭義のリハビリ)であり、リハビリのきっかけ作り、専門の立場からの他職種への助言などに過ぎません。全員の協力があつてはじめてリハビリが完結し、介護も完結し得るのです

一羊館の職員は全員が介護（広義）のプロであり、リハビリ（広義）のプロです。

このリハビリ・介護についての意識を皆さんで共有しましょう。